



## 寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

### 子育て便り

#### 「幼児期の科学教育について」

西九州大学子ども学部子ども学科 講師 飯盛啓生

ここ数年、理系分野における複数の日本人のノーベル賞受賞のニュースが伝えられました。そのこともあってか、2016年に第一生命が行った「大人になったらなりたいもの（男子）」のランキングで「学者・博士」が2位になりました。

一方、以前より子どもの「理科嫌い・理科離れ」の問題が指摘されています。小学生になり、学年が上がるごとに「理科嫌い・理科離れ」になる子どもの数は増加する傾向にあるようです。また、小・中学校時代に理科が好きだった人のうち71.1%は現在も科学的なニュースや話題に関心をもつのに対し、理科が嫌いだった人のうち59.3%は関心がない、またはあまり関心がないとの調査結果があります<sup>1)</sup>。このことは日本人が科学への知識・理解が低い、すなわち「科学リテラシー」が国際的にみて低いと言われることにつながっていると考えられます。

「理科嫌い・理科離れ」の原因について、様々な分析がされていますが、その一つとして日常生活の中での理科への関心の低下が言われています。理科好きを養成するには、日常生活の中で科学や自然と触れることと学校における理科教育が大事であるとされています。すなわち、普段の生活の中において、理科の分野に興味を持たせることが、非常に重要な役割を担っていると考えられます。

そのためには、幼児期から身近な科学の現象を体験することは大事であると考えます。子どもは周りの色々な現象に驚き、疑問を持ち、「何故なの」と大人たちに尋ねます。子どもの「問い」に対して大人は一緒に考え、調べるのが大事だと思います。例えば、野菜や花の色の変化、コップの水を冷凍庫に入れて凍らせたときの変化の様子など、日常生活の中にテーマは色々あります。子どもの疑問に対してわからないままにしておくのは理科への興味を失ってしまいかねません。そして、子どもの疑問解決に向けた大人の姿勢が大事であると考えます。

また、幼児期における科学への導入は絵本・紙芝居・漫画などを利用することも良いと思います。ロボットの研究者の中には手塚治虫の「鉄腕アトム」に影響を受けた人も多くいます。良い媒体にめぐりあうことは大事であり、その手助けをする大人たちの役割は大きいと考えます。重要なことは、子ども本人が強制されずに自然と科学の世界に興味を持ち、科学への興味を失うことなく成長することだと思います。そのためにも普段の生活において理科・科学に触れる環境を周りの大人たちが「それとなく」整えることが重要ではないかと思

1)長沼祥太郎：科学教育研究,39,114 (2015)

### 食育便り

#### 「感染症予防を」

西九州大学健康栄養学部教授 石松 秀

毎日寒い日が続きます。先日は通勤路の田んぼが雪に覆われたほど。大人は縮こまっていますが、子どもたちは元気に駆けまわっていることだと思います。こうした季節に流行するのが感染症です。今、インフルエンザの流行がピークを迎えようとしています。インフルエンザ以外にも流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、水痘（水ぼうそう）、溶連菌感染症、そして感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルス）などの流行のピークが冬から春先に集中しています。どうしてこの時期に感染症が流行するのでしょうか？一般に冬は空気が乾燥し、ウイルスが空気中に浮遊しやすくなるからだと考えられています。空気中にただよっているウイルスをヒトが吸い込むと体内に侵入することになります。こうして侵入したウイルスや病原菌が体内で増殖すると感染症に繋がるのです。1回の咳やくしゃみで飛び散るウイルスは数十万個から100万個に達すると言われています。

では感染症から身を守るにはどうしたらいいでしょう。インフルエンザワクチンはある程度有効ですが、この季節流行るのは、インフルエンザだけではありません。最も手軽にできるのは手洗いです。子どもたちは鼻水がついた手や口に入れた指で平気で何でも触ります。定期的に手を洗い、また食事前や外から帰ってきたときにも手を洗いましょう。寒いからといってずっと窓を閉め切っているとウイルスが室内に増える原因ともなります。時々窓を開けて空気を入れ替えましょう。咳エチケットも大切です。咳やくしゃみが出る時はマスクをしましょう。もし手で咳やくしゃみを受け止めたら、手を洗いましょう。ティッシュで鼻をかんだり、鼻水を拭き取った後にも手洗いをしましょう。空気の乾燥を防ぐため部屋に除湿機や植物のプランターを置くのもいいでしょう。最近「鼻呼吸」をすることで感染症が防げることが知られてきました。鼻は身体に備わった加湿器であり、フィルターです。普段から口をポカンと開けていたり、口呼吸をしていませんか？口呼吸は感染症のみならず虫歯や歯周病の原因になるとも考えられています。日頃から鼻呼吸を意識しましょう。感染対策には予防が大切です。以下の4つのポイントを頭において、感染症予防に努めましょう。

- 1) 手洗い
- 2) 換気と加湿
- 3) 咳エチケット（マスク）
- 4) 鼻呼吸

